



2006年21号（通巻1136号）

発行：筑波大学

編集：総務・企画部

発行日：平成18年11月30日

本号の内容

- ・農林技術センター収穫祭
- ・学長主催外国人留学生懇談会の開催
- ・第III期情報化研修を実施
- ・筑波大学ニーズ・シーズ情報交換会の開催
- ・産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」を開催
- ・韓国釜山広域市等の日本視察団一行が産学リエゾン共同研究センターを訪問
- ・長野県議会「志昂会」一行が産学リエゾン共同研究センター（ILC）を訪問
- ・“あそびネット” UNESCO University Student Exchange Programによる国際交流
- ・筑波アジア農業教育セミナーの開催
- ・科学実験講座を開催
- ・附属病院で患者参加型公開糖尿病集団教室を開催
- ・日本産業技術教育学会において文部科学大臣賞等を受賞
- ・鈴木久敏教授が出前授業
- ・歯型彫刻コンテストで審査員賞を受賞

お知らせ…………… 7

- ・安全キャンペーン週間の実施
- ・防犯・安全運転講習会の開催
- ・「米百俵賞」候補者推薦のお知らせ
- ・交通事故等の防止について
- ・積立貯金事業にかかる「払い戻し・解約請求書」等の提出日
- ・国際シンポジウム「東アジアにおける首都の近代化と都市保存」
- ・つくばブレインサイエンス・セミナーの開催
- ・12月の屋内プールの学内開放
- ・文部科学省・筑波大学国際教育協力シンポジウム「開発途上国における派遣現職教員の活躍―帰国隊員報告会―」の開催
- ・液体窒素・液体ヘリウムの供給停止のお知らせ
- ・附属図書館の年末・年始の休館、冬季休業に伴う貸出期間の変更
- ・附属小・中・高等学校体育科・保健体育科合同研究会の開催

各種表彰等…………… 10

2006
21

第2回交通安全指導を実施

～学内2ヶ所で～



11月16日早朝、体芸図書館前ペDESTリアン上及び第二学群バス停付近の2ヶ所において、交通安全指導が行われました。この交通安全指導は、筑波大学セーフティ・プロジェクト内に設置された交通安全タスク・フォースの職員・学生が中心となり、学生に対し、自転車の2人乗りや走行中の携帯電話の使用等の危険運転に注意を喚起し、事故防止を呼びかけることを目的として行なわれているもので、9月29日に行われたトレモントホテル付近の交差点及び平砂トンネル西側入口付近での指導に引き続き2回目の実施となりました。当日は1時限目開始前で、大勢の学生が自転車で移動する時間帯の中、それぞれの場所において職員の元気な挨拶とともに指導が行われました。この指導は、今後も月1、2回程度実施する予定です。

また、12月1～7日は、学生担当教員室と本プロジェクトが主体となって「安全キャンペーン週間」が実施されます。期間中、5日（火）は構内の障害学生の安全確保を目的とした自転車の駐輪指導を、6日（水）にはつくば中央警察署の協力による交通安全指導を行う予定ですので、職員・学生の方も多数ご参加くださるようお願いいたします。

問合せ：総務・企画部総務課総務係 TEL.2025

農林技術センター収穫祭



挨拶をする岩崎学長

恒例の収穫祭が、11月16日に農林技術センターにおいて行われました。岩崎洋一学長をはじめ、工藤典雄、瀧田宏樹、泉 紳一郎、腰塚武志の各副学長、井上 勲生命環境科学研究科長、その他学内要職者、センター職員など関係者約70名が参加して、1年間の収穫に感謝し、懇談しました。

学長主催外国人留学生懇談会の開催

平成18年度に入学した外国人留学生を歓迎し、岩崎洋一学長をはじめ、職員、チューター、地域交流団体等の代表者と外国人留学生との相互の親睦を図るための懇談会が11月15日、第二学群大食堂において開催されました。懇談会はカイザー・シュテファン留学生センター長の司会により進められ、主催者である岩崎学長から、心温まる歓迎の言葉と学業の成就を期待する挨拶がありました。引き続き、出席いただいた奨学財団、地域交流団体等の来賓の紹介後、工藤典雄教育担当副学長の乾杯の発声により懇談に入りました。歓談の合間には、津軽三味線倶楽部「無絃塾」による歌と演奏があり、会場は大いに盛り上がりました。また、懇談会に先立ち、奨学財団、地域交流団体と本学との意見交換会が開催され、各団体の活動説明に続いて活発な意見交換が行われました。



左：留学生と懇談する岩崎学長
右：「無絃塾」の演奏で盛り上がる会場



第Ⅲ期情報化研修を実施

平成18年度第Ⅲ期情報化研修として、情報セキュリティ基礎コース、及びPowerPoint基礎コースを実施しました。情報セキュリティ基礎コースは、11月9日に第二学群D棟実習室を会場に52名が受講しました。このコースは、パソコンやインターネットを利用する上での情報セキュリティの基礎を習得するコースです。PowerPoint基礎コースは、11月10日に第二学群D棟実習室を会場に21名が受講しました。このコースは、近年会議などで使用することが増えているプレゼンテーションソフトの基礎を習得するコースです。



左：情報セキュリティ基礎コースの研修風景
右：PowerPoint基礎コースの研修風景



筑波大学ニーズ・シーズ情報交換会の開催

11月17日、産学リエゾン共同研究センターと筑波大学産学連携会（TOMO）の主催による「筑波大学ニーズ・シーズ情報交換会（第3回）—筑波大学発ベンチャー・健康と医療分野を中心に—」が産学リエゾン共同研究センターにおいて、73名の参加のもと開催されました。本会は、企業ニーズと大学シーズを通じて、相互による話題提供を身近に図りながら、一層の産学連携を促進する事を目的に開催されています。筑波大学発ベンチャー創出数も現在60社となり、様々な研究成果を基にしたベンチャー企業が生まれています。今回は健康と医療関係分野のベンチャーを幾つ

か紹介しましたが、今後、このような会を通じて、他分野のベンチャーにおいても継続的に紹介していきたいと考えています。開催に先立ち、産学連携会を代表して、白玉良一副会長（財団法人電力中央研究所理事長）の挨拶、筑波大学を代表して、岩崎洋一学長の挨拶のあと、特別講演として、田村真理子氏（日本ベンチャー学会事務局長）より、「大学発ベンチャーの期待と将来」について、引き続き、筑波大学発ベンチャー報告では、スマートヘルスケア(株)の大蔵倫博氏（人間総合科学研究科講師）より、「医療と予防をミックスした新しい形の健康サービス～楽しく賢く美しく健康になれる「スマートヘルスケア アカデミー」の設立～」について、(株)つくばスポーツインテリジェンスの阿江通良氏(人間総合科学研究科教授)より、「体育・スポーツの知と技を企業化し、社会に貢献するつくばスポーツインテリジェンス」について、(株)THFの中田実千氏（(株)THF取締役）より、「健康長寿を実現する包括形健康づくり支援システムの開発」について、(株)らふえるの林 啓子氏（人間総合科学研究科助教授）より「ビジネスにすれば実現する「笑って健康」」について、それぞれ報告がありました。参加者からの質疑では、筑波大学発ベンチャーならではのユニークな事業発想への関心や期待の高さを伺わせる積極的な質疑が行われました。報告会終了後の懇談会では、参加者、各報告者と岩崎学長、瀧田宏樹副学長、泉紳一郎副学長、大学関係者を囲みながら、終始、なごやかな懇談が行われ、盛況のうちに終了いたしました。



左：挨拶をする白玉氏
右：挨拶をする岩崎学長

郎副学長、大学関係者を囲みながら、終始、なごやかな懇談が行われ、盛況のうちに終了いたしました。

産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」を開催

一 研究事業部産学連携課一

11月16日、西京信用金庫本店（新宿区）において、産学交流セミナー「筑波大学研究交流会・科学技術相談会」を西京信用金庫と共同で開催しました。本セミナーは、筑波大学の研究成果を企業に公開し、共同研究や技術移転の促進を図るため、平成16年度から継続して定期的に開催しているものです。セミナーの開会にあたり、まず、西京信用金庫の北村啓介専務理事から開会の挨拶があり、続いて、本学産学リエゾン共同研究センターの菊本虔教授から、本学における産学連携への取組みについての説明がありました。その後、人間総合科学研究科の橋本佐由理助教授から、「健康づくり幸せづくり～気質理解による人間関係円満のコツ～」、人間総合科学研究科の蓮見孝教授から、「2つの酒造りの物語」と題した講演が行われました。両者とも、身近な大変興味深い内容であったため、受講者も熱心に耳を傾け、大いに盛り上がった講演会となりました。その後の交流会においても、2人の講演者を中心に、活発な交流が行われ、出席した企業の方々には、本学の幅広い研究分野について理解が



左：講演をする菊本教授
右：講演をする蓮見教授

深まったものと思われま

韓国釜山広域市等の日本視察団一行が産学リエゾン共同研究センターを訪問

ILC玄関前で記念撮影



11月9日、韓国釜山広域市等の日本視察団一行36名が、本学の産学連携の窓口である産学リエゾン共同研究センター（ILC）を訪れました。本視察団は、日本の大学と企業との連携状況を視察することにより、地域の活性化を目指すことを目的に来訪したものです。ILCでは、最初に、油田信一センター長から産学リエゾン共同研究センターの

活動状況、産学連携の現状、大学発ベンチャーの動向等について説明があり、活発な質疑応答が行われました。続いて、産学連携推進創業支援プロジェクト代表者の松村正利教授（生命環境科学研究科）から、高品質バイオディーゼル生産プロセスの開発と事業化及び今後の展望等について説明が行われました。最後に施設見学を行い、大変参考になったとの声が聞かれました。

長野県議会「志昂会」一行が
産学リエゾン共同研究センター
(ILC) を訪問

11月13日、長野県議会「志昂会」一行6名が、本学の産学連携の窓口である産学リエゾン共同研究センター（ILC）を訪れました。「志昂会」は、産学連携の状況等について情報収集し、地域の活性化を目指すことを目的に来訪したものです。ILCでは、最初に、油田信一センター長から産学リエゾン共同研究センターの活動状況、産学連携の現状、大学発ベンチャーの動向等について説明があり、活発な質疑応答が行われました。続いて、産学連携推進創業支援プロジェクト代表者の松村正利教授（生命環境科学研究科）から、「高品質バイオディーゼル生産プロセスの開発と事業化」について、及び同プロジェクト代表者の山海嘉之（システム情報工学研究科）教授から、「随意・



ILC玄関前で記念撮影

自律複合型ロボットスーツHAL開発プロジェクト」についてそれぞれ説明があり、予定時間をオーバーする熱心な意見交換が行われました。最後に、産学連携推進ベンチャー支援プロジェクトの(株)ニューフォレスターの研究室を見学し、星野 厚代表取締役（システム情報工学研究科1年）から、デモンストレーションを交えた説明が行われました。

“あそびネット” UNESCO
University Student Exchange
Programによる国際交流

10月23日から11月3日の12日間、アジア太平洋地域の文化交流を促進するユネスコアジア文化センター（ACCU）の支援を受け、生命環境科学研究科生物系3専攻主催による“あそびネット”（AsOBiNet; Asia-Oceania Biological Network）」プログラムが実施されました。

AsOBiNetは表面的なネットワークではなく、近未来の共同研究や学術的交流を促した深みのある交流を目的としています。ニューサウスウェルズ大学（UNSW）、オーストラリア国立大学（ANU）、モナッシュ大学（MU）（オーストラリア）、清華大学（中国）およびカセサート大学（KU）（タイ）より、審査を経て選ばれた10人の大学院生と2名のスタッフが招待されました。筑波大学からは生物学類、生物科学専攻、構造生物科学専攻および情報生物科学専攻に在籍する9人の日本人学生、4人のスタッフおよび多くの生物系教授が参加し、濃密な時間を過ごしました。プログラム期間中は大学院生同士による研究紹介やディスカッションの他に、下田臨海実験センターでのマリンバイオ実習や、日光および東京の文化施設見学などを通し、学問と文化の両面における国際交流を深めました。また、プログラム期間中の一時的な交流に留まらず、今後もウェブサイトを利用した情報交換と交流を続け



左：井上生命環境科学研究科長の特別講義
右：下田臨海実験センターにおけるマリンバイオ実習



る体制を整え、また筑波で集う計画を固めました。

筑波アジア農業教育セミナー
(2006TASAE) の開催

農林技術センターでは、日本ユネスコ国内委員会との主催および、(独)国際協力機構（JICA）、附属坂戸高等学校の共催により、11月7日から13日にかけて「2006年筑波アジア農業教育セミナー（2006TASAE）」を大学会館特別会議室で開催しました。今年度は、「地球環境的・地域環境的視点からの水資源利用・保全技術動向および農林業教育が果たすべき役割」をテーマとした各国報告が行われ、アフガニ

スタン、アメリカ、バングラデシュ、中国、インド、フィリピン、タイ、日本から8名の専門家が参加しました。本学教職員や学生の聴講に加え、昨年度から試行されたJICA筑波研修生の参加と同研修生によるポスターセッションは、同セミナーにより一層の花を添え、盛会のうちに終了しました。同セミナーへの参加は、同研修生にとってTASAE各国代表者らとの貴重な意見交換の場を共有し、有意義な研修となったようです。本セミナーは、2007年までは一貫して「水資源」に関連したテーマを設定し、毎年11月中旬に大学会館特別会議室を舞台として開催されます。詳細は、

<http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/~tasae/>からご覧いただけます。



科学実験講座を開催

11月9日、茨城県立土浦第一高等学校の1年、2年次生徒34名を研究基盤総合センター加速器部門に迎え、科学実験講座が開催されました。この講座は朝永振一郎博士生誕100年記念事業青少年プログラムの一環として行われたもので、数理物質科学研究科物理学専攻教員等の指導のもと、班別による β 線の飛程と宇宙線の検出実験、陽子ビームの蛍光体による観察と γ 線の半減期測定及び自然放射線についての講義等が実施され、高校では体験できないプログラムに、生徒たちは眼を輝かせながら熱心に受講していました。また、朝永博士の業績等を紹介した冊子と物理学類のパンフレットも好評で、多くの生徒が筑波大学に関心を持ったようでした。青少年プログラムによる近隣の中学校及び高等学校への出前授業は、12月まで行われる予定です。



講義を受ける土浦一高の生徒

附属病院で患者参加型公開糖尿病集団教室を開催

11月9日、患者参加型公開糖尿病集団教室が附属病院職員食堂において開催されました。この教室は、患者さまに対する食事療法の敷居を低くして楽しく学んでいただき、知識や食生活の確認をするきっかけづくりを目的として行われました。当日は、本院の患者さまを始め、看護師等の関係者や院外の参加者合わせて約90名が参加し、山口 巖附属病院長及び鈴木君江看護部長のあいさつの後、島野 仁病態栄養部長が糖尿病について、根岸美幸管理栄養士が実演を交えて運動療法について、岩部博子管理栄養主任が食事療法についてそれぞれ講演しました。参加者は熱心に耳を傾けていました。また、タッチパネル式の大画面を利用した画像での疑似体験コーナーでは、松浦成志管理栄養士が、参加者に実際にタッチパネルを触っていただきながら血糖値の状態や食事療法などについて分かりやすく解説しました。最後



左：島野 仁病態栄養部長の講演
右：運動療法の実技指導の様子



に、参加者一人ひとりに受講証が渡されました。

日本産業技術教育学会において
文部科学大臣賞等を受賞

—附属中学校—

左から、山田さん、佐
俣教諭、小田部君



日本産業技術教育学会主催第9回「エネルギー利用」技術作品コンテストで、附属中学校1年山田佳林さんが作品「ゴムバンドエンジン」で文部科学大臣賞を、同1年小田部潤君が作品「金魚の病院」で産業技術教育学会会長賞を受賞しました。附属中では他に優良賞3名、入選11名が表彰され、同時に、技術科佐俣純教諭も優良指導者賞を受賞しました。

鈴木久敏教授が出前授業

—附属坂戸高等学校—

10月21日、28日、11月4日、附属坂戸高等学校で、ビジネス科学研究科の鈴木久敏教授（大学研究センター長、前ビジネス科学研究科長）による出前授業が行われました。受講した生徒は、希望者対象の土曜講座「アカデメイア」を選択している1年生57名のうち10名です。土曜講座「アカデメイア」は従来の「補習」とは異なり、ゼミ形式で「考え方を学ぶ」講座で、平成15年度から実施されています。卒業研究や総合的学習の時間、そして社会に出たときに、自分の視点から意見を言うことができる生徒を育成することを目標にした、坂戸高等学校の「新しい進学の形」に沿った講座です。今回の出前授業は鈴木教授のほか、同研究科の牧本直樹助教授、猿渡康文助教授が取り組んでいる研究「数学的思考能力向上を目的とする生徒の日常体験を生かした教育プログラムの開発」の一環で行われました。テーマは「ネットワーク上の対戦ゲーム“Alexander Islands”南の島で仮想企業を経営してみよう」で、2人でチームを組み、チーム毎にコンピュータ上に設定された仮想の企業を運営し、他のチームと企業経営の成果を競うという作業を行いました。その作業を通して、「企業の諸機能や企業全体の活動を統合的に捉え、企業を管理・運営する能力を修得する」、また、「経営データ（数値データ）の分析を通して、企業活動の現状を的確に把握し、分析できる能力を獲得するとともに、データ処理の仕組みを理解し、処理結果の意味を解釈する」という目的で行いました。生徒たちは、



講義を行う鈴木教授

いかにしたら経常利益をあげられるかを考えるために、現状把握・分析に勤しんでいました。そして最後には自社の成功・失敗の要因をまとめ、しっかりと振り返りを行っていました。今までにはなかったテーマに、積極的に取り組み、擬似的な起業に夢を膨らませている姿が印象的でした。

歯型彫刻コンテストで審査員賞
を受賞

—附属聾学校—

審査員賞を受賞した村
上君

11月12日、神奈川県歯科技工士会主催の第7回歯型彫刻コンテスト「ほるほる」（学生の部）が行われ、附属聾学校高等部専攻科歯科技工科3年の村上祐太郎君が審査員賞を受賞しました。この大会は、神奈川県をはじめ東京都、千葉県などの歯科技工士養成機関から約100名の学生が参加し、石膏を彫刻して指定された歯の形態に仕上げるもので、今年は例年以上にレベルの高い争いとなりました。受賞した村上君は「今まで努力してきたので、結果を出すことができ、とても光栄に思っています。来年は有資格者の部に挑戦したいと思います」と来年への意気込みを見せていました。また他の生徒からは「受賞できなかったけど良い経験になった」「来年は賞を取れるように努力したい」などの感想が聞かれました。



●お知らせ

安全キャンペーン週間の実施～
再点検、安全・安心キャンパス
ライフ

本学における学生生活支援充実化の一環として、事件および事故に対する予防対策を中心とした啓発活動を「安全キャンペーン週間」として12月第1週に実施します。期間中、下記の通り学内随所にてキャンペーンを行いますので、ご協力ならびに積極的なご参加をお願いいたします。

◆防犯、安全運転講習会

12月5日（火）（18：00～19：45） 大学会館講堂

◆安全ポスター展示会

12月1日（金）～7日（木） 中央図書館エントランスホール

◆STUDENTS安全特集冬号 学内食堂、各学群棟のスタンドにて配布

◆安全のしおりダイジェスト版 学内食堂テーブルに設置

◆学内パトロールの実施（期間中3回予定）

ボランティア募集 連絡先：人文社会科学等支援室総務係

e-mail:sien.jinsyass@sec.tsukuba.ac.jp

◆交通安全指導の実施

(1) 12月5日（火）11：30～12：00 第一、第二、第三の各学群棟周辺

構内での障害学生の安全確保（チラシ配布等）

(2) 12月6日（水）11：30～12：00 体育専門学群棟～外国語センター間のペデ

ストリアン上

つくば中央警察署の協力による交通安全指導（チラシ配布等）

共 催：学生担当教員室、セーフティプロジェクト

防犯・安全運転講習会の開催

最近、大学を中心とした地区では、強盗、空き巣、痴漢等の犯罪の増加や交通事故が問題になっています。これらの犯罪・交通事故を未然に防ぐとともに、本学学生及び教職員の防犯意識の向上を図るため、筑波大学セーフティプロジェクト（地域連携タスクフォース）及び学生担当教員室では、防犯及び交通安全の専門家を招いて、下記により防犯・安全運転の講習会を企画しましたので、是非ご参加ください。

日 時：12月5日（火）18：00～19：45

会 場：大学会館講堂

講 師：鹿志村 一一氏（つくば中央警察署長）

芳賀脩光氏（つくば市防犯自警団連絡協議会長）

「米百俵賞」候補者推薦のお知らせ

財団法人長岡市米百俵財団から第11回「米百俵賞」候補者の推薦依頼が次の募集要項のとおりありましたので、お知らせします。

対 象：教育、文化、福祉、スポーツ、産業等の分野において、独創的な活動により人材の育成に大きく貢献し、「米百俵」の精神を今に体现する個人又は団体。

表彰は、原則として1名又は1団体とします。（国籍、居住地は問いません）

賞：表彰楯、副賞（賞金100万円）

募集締切：12月22日（金）

推薦方法：被推薦者がある場合は、組織・人事部人事課福祉第一係（2097・2098）までご連絡ください。

選考方法：推薦のあった個人・団体の中から長岡市米百俵財団の米百俵賞選考委員会において受賞者を選考します。

表 彰：平成19年6月15日「米百俵デー」に行います。

交通事故等の防止について
ー組織・人事部人事課ー

交通事故及び交通法規違反の防止については、従来から注意を呼びかけてきたところですが、これから年末年始の時期を迎え、飲酒の機会も増えると思われれます。職員各位におかれましては、飲酒運転の根絶に向け、「飲んだら乗らない！乗るなら飲まない！」ことと併せて、「車を運転する人に飲ませない！飲んだ人に車を運転させない！」ことを徹底願います。飲酒又は酒気帯び運転及びこれに伴う交通事故等

の場合は、懲戒処分などの厳しい対応をすることとなります。万が一事故等を起こし、道路交通法違反による行政処分及び刑事処分を受けるような場合は、所属の長あて遅滞なく報告願います。

積立貯金事業にかかる「払い戻し・解約請求書」等の提出日

平成19年1月分の「払い戻し・解約請求書」等の提出については、年末年始の祝休日の都合上締め切り日が変更になりますのでご注意ください。
平成19年1月分提出日：12月18日（月）共済組合係必着（人事課福利厚生室内）

国際シンポジウム「東アジアにおける首都の近代化と都市保存」

主 催：筑波大学「伝統的都市における街区保存手法の日中比較」研究会

日 時：12月3日（日）10：00～18：00

場 所：秋葉原コンベンションホール（秋葉原ダイビル2階）

内 容：基調講演 北京旧城における都市像の変容と保存政策の歩み
毛 其智氏（清華大学・建築学院・副院長）

第1部：北京における開発と保存

1. 「理想」と「現実」の渦からの脱却 張 傑氏（清華大学・建築学院・教授）
2. 北京旧城における土地利用の変遷（1949-2002）に関する研究
譚 縦波氏（清華大学・建築学院・教授）
3. 北京旧城保全における行政介入の程度—煙袋斜街の景観整備の事例について
辺 蘭春氏（清華大学・建築学院・教授）
4. 戸籍データからみる北京市・歴史文化保護地区の除却移転事業の特徴
吉田友彦氏（筑波大学大学院・講師）

第2部：韓国・日本における現状と課題

5. 日本の都市部における歴史的建築物の保存
後藤 治氏（工学院大学・工学部・教授）
6. ソウルの近代化と都市保存 田 鳳熙氏（ソウル大学・工学部・助教授）
7. 京都の都市史と都市保存—北京との比較の視点から
藤川昌樹氏（筑波大学大学院・助教授）

第3部：パネルディスカッション

パネラー（予定）：張 傑氏，譚 縦波氏，後藤 治氏，田 鳳熙氏，藤川 昌樹氏
コメンテーター：谷村秀彦氏（北九州市立大学・教授）

備 考：無料。資料あり，通訳（中国→日本語，韓国語→日本語）あり
詳しくは，<http://wright.sk.tsukuba.ac.jp/symposium/>

つくばブレインサイエンス・セミナーの開催

第135回つくばブレインサイエンス・セミナー

日 時：12月12日（火）18：00～

場 所：医学専門学群棟 臨床講義室A

演 題：Stimulate or disrupt human brain to understand its function
-transcranial magnetic stimulation study-

講演者：小林正人先生（慶応義塾大学 脳神経外科）

問合せ（TBSA事務局）：志賀 隆教授（人間総合科学研究科）TEL.6961

E-mail tbsa-sec@md.tsukuba.ac.jp

ホームページ <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tbsa/>

※臨床講義室Aは医学図書館の上の階です。

12月の屋内プールの学内開放（学生・職員対象）

下記の日時に、本学の学生及び職員を対象にプールを開放します。ただし、都合により中止する場合があります。中止の場合は、プールに掲示します。なお、水泳キャップを被っていない方の利用は出来ません。また入場の際は、必ずプール使用申込書に必要事項を記入してください。

期 日：1日（金），4（月），6（水），8日（金），11日（月），15日（金），18日（月），20日（水），22日（金）

開放日は原則として、月・水・金（休日を除く）です。今月は13日，25日及び冬

季休業中は開放しません。

時 間：17：00～18：25 問合せ：体育センター（TEL.2881）

文部科学省・筑波大学国際教育
協力シンポジウム「開発途上国
における派遣現職教員の活躍
－帰国隊員報告会－」の開催

本シンポジウムでは、現職教員特別参加制度により青年海外協力隊隊員として派遣された現職教員の優れた活躍を紹介するとともに、開発途上国派遣の今後の展開への課題を探っていきます。

日 時：平成19年1月7日（日）10：00～17：00

会 場：JICA国際協力機構国際協力総合研修所（東京，市谷）

プログラム1 青年海外協力隊派遣の重要性

- ・文部科学省
- ・国際協力機構

プログラム2 派遣現職教員の活躍

- ・派遣現職教員による任地での活動報告

プログラム3 帰国後の活動と協同

- ・派遣経験を生かした教育活動事例報告
- ・「インターネットライブ授業」の報告

プログラム4 派遣現職教員支援活動の紹介

- ・教育開発国際協力研究センター

主 催：文部科学省，筑波大学

共 催：国際協力機構（JICA）

事務局：教育開発国際協力研究センター（CRICED）

<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/2007/> TEL.6573

液体窒素・液体ヘリウムの供給
停止のお知らせ
－研究基盤総合センター低温部
門－

低温部門では、年末・年始における低温寒剤の供給を次のとおり停止いたします。

液体窒素の供給停止期間

12月27日（水）～1月4日（木）

液体ヘリウムの供給停止期間

12月27日（水）～1月5日（金）

附属図書館の年末・年始の休館、
冬季休業に伴う貸出期間の変更

◆年末・年始の休館：12月27日（水）～1月5日（金）

◆貸出期間の変更：12月5日（火）から12月31日（日）までの間に一般貸出を受けた図書（休館中はWebから更新を行った場合）の貸出期間は、通常の3週間より長くなります。これらの図書の返却日は1月9日（火）から1月22日（月）の間のいずれかの日になります。返却期限を確認し、延滞のないように注意してご利用ください。ご不明な点がありましたら、各館のメインカウンターまでお問い合わせください。

中央図書館 TEL.6055 体芸図書館 TEL.2878 医学図書館 TEL.3256

図情図書館 TEL.8-1232 大塚図書館 TEL.03-3942-6818

附属小・中・高等学校体育科・
保健体育科合同研究会の開催

附属小・中・高等学校体育科・保健体育科では、昨年度に引き続き平成18年度も小・中・高の授業の一貫性をテーマに、合同研究会を下記の通り開催します。第2回目の研究会では、バレーボールを題材にした小・中・高の授業を公開し、ボール操作の系統的な発達、ゲームづくりの基本的な考え方、そして授業の構成や進め方などを切り口に研究協議を行いたいと考えています。お忙しい中とは思いますが、万障お繰り合わせの上、ご高覧いただければ幸いです。

期 日：平成19年1月27日（土）

会 場：筑波大学附属中学・高等学校（文京区大塚1-9-1）

内 容：

○公開授業 9：30～13：20

小 学 校 木下光正（附属小学校）5年 バレーボール型ゲーム

中 学 校 小山 浩（附属中学校）2年男子 バレーボール

高等学校 藤生栄一郎（附属高等学校）2年男子 バレーボール

○研究協議 13:40~16:10

司会進行：中塚義実（附属高等学校）

授業者：木下光正・小山 浩・藤生栄一郎

講師：朽堀申二氏（筑波大学名誉教授・元筑波大学附属中学校長）

日 程：

9:00 受付 9:30~10:15 小学校公開授業 10:30~11:20 中学校公開授業

12:30~13:20 高等学校公開授業 13:40~16:10 研究協議

※昼食については各自でご準備いただくか、近くの飲食店でお取りいただくようお願いいたします。

参加費：1,000円（資料代等）※学生無料

参加申込み：連絡担当の関野までE-mailまたはTEL、FAXにて連絡いただくようお願いいたします。事前連絡ができない場合には当日受付けで結構です。ビデオやカメラを用いての撮影や録音についてはご遠慮願います。

問合せ：附属中学校 保健体育科 関野 E-mail: tsukuba_taiiku_4@infoseek.jp

TEL.03-3945-3231（代表）、03-3945-3309（保健体育科準備室）

FAX.03-3945-3886

●各種表彰等

花木伸行講師が財団法人日本証券奨学財団の研究調査助成金に採択

花木伸行講師（人文社会科学研究科，国際政治経済学専攻）が代表者である研究プロジェクト〔中嶋亮講師（人文社会科学研究科，国際政治経済学専攻），小倉義明講師（一橋大学）との共同研究〕が財団法人日本証券奨学財団の平成18年度研究調査助成金に採択されました。受賞対象課題名は「特許申請データによる産学・産産ネットワーク構造とR&D生産性に関する実証研究」です。日本証券奨学財団研究調査助成金は，法学，経済学，社会学，理学及び工学の5部門を対象として，研究調査を奨励し，学術の振興を図り，もって社会の発展と福祉に寄与することを目的としています。

新井 誠教授がフンボルト賞を受賞

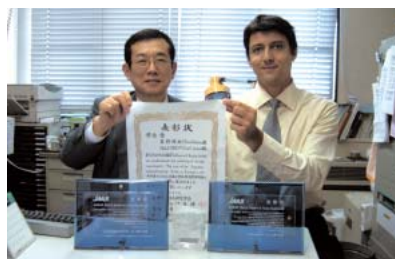
新井 誠教授（ビジネス科学研究科，法曹専攻長）に2006年度のフンボルト賞（Humboldt Research Award）が授与されることになりました。同賞はドイツのアレクサンダー・フォン・フンボルト財団が国際的に高く評価される業績をあげたドイツ国外の研究者に授与するものであり，新井教授のこれまでの成年後見法，信託法等の分野における先駆的な研究が受賞の対象となりました。同賞の受賞者の大半は自然科学，工学分野の研究者であり，法学分野からの受賞は新井教授だけでした。2007年3月下旬にバンベルクにて授賞式が挙行政され，副賞としてフンボルト財団の援助によりドイツでの研究の機会が与えられます。



受賞決定通知書を手にする新井教授

星野靖雄教授，イリアン・ソムレフ外国人受託研究員が国際ビジネス研究学会学会賞と経営行動科学学会賞優秀研究賞を受賞

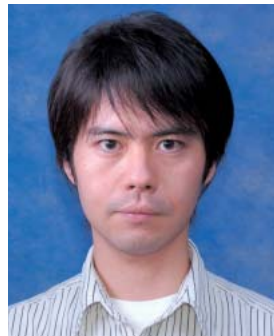
星野靖雄教授（システム情報工学研究科，社会システム・マネジメント専攻）及びイリアン・ソムレフ外国人受託研究員（同）は“Influence of location factors on establishment and ownership of foreign investments: The case of the Japanese manufacturing firms in Europe” International Business Review（欧州国際経営学会の機関誌）Vol. 14掲載の論文で両賞を受賞しました。国際ビジネス研究学会（会員数683人，会長榊原清則慶応大学教授）は，1994年7月に設立された国際ビジネスの諸問題を学際的な視点から総合的に研究し，国際社会の発展に寄与することを目的としている学会です。学会賞の著書の部門は本年で11年目ですが，論文の部門は4



回目で3番目の受賞であり、昨年は該当作がありませんでした。経営行動科学学会（会員数685人、会長星野靖雄教授）は前身の研究会の時期をいれ現在20期目ですが、学会賞は今年で4回目であり、これまでは著書のみが学会優秀賞でしたが、本年はじめて論文も対象となりました。この学会は、経営組織、組織行動、国際企業経営に関する学会であり、両学会とも日本学術会議登録の、日本経済学会連合所属の学会です。

松田哲也講師が日本機械学会奨励賞（研究）を受賞

松田哲也講師（システム情報工学研究科，構造エネルギー工学専攻）が，日本機械学会奨励賞（研究）を受賞しました。この賞は，機械工学に関する研究において顕著な業績を上げた新進研究者に対し日本機械学会より贈呈されるもので，この度，同講師の「時間依存均質化理論の構築とその応用に関する研究」が受賞対象となりました。



この研究で同講師は，粘塑性変形や非定常クリープのような時間依存変形を示す周期材料の均質化理論を構築するとともに，その応用として長繊維強化積層板や平織積層板の弾-粘塑性解析等を実施し，有用な知見を得ました。さらに，本解析法により実験結果を精度良く予測することにも成功しています。

白岩善博教授がSpringer社のMarine Biotechnology Editorial Board-Recognition Awardを受賞

白岩善博教授（生命環境科学研究科，情報生物科学専攻）がSpringer社のMarine Biotechnology Editorial Board-Recognition Awardを受賞し，副賞として賞金を授与されました。本賞はSpringer社がスポンサーとなり，Marine Biotechnology誌の編集委員としての質の高いレビューや自身の論文発表を通して同誌の発展に寄与した研究者に与えられます。



本受賞はMarine Biotechnologyの7/8月号（2006）で発表されました。尚，同誌は全米出版者協会の1999/2000年のBest New Journal in Science/Technology/Medicineを受賞しているマリンバイオテクノロジー関連の新しい雑誌です。

橋本義輝講師が「平成18年度日本生化学会奨励賞」を受賞

橋本義輝講師（生命環境科学研究科）は，「イソニトリル・ニトリルの新規代謝経路の発見と新規酵素の分子機能解析」により，「平成18年度日本生化学会奨励賞」を受賞しました [<http://www.jbsoc.or.jp/support/encouragement.html>]。授賞式は10月27日，東京大学学士会分館で開催されました。この賞は，日本生化学会（会員数12,000名）



が実施し，生化学の進歩に寄与する顕著な研究を発表しなお将来の発展ができる40歳未満の研究者を表彰する制度で，今年度は3名に本奨励賞が授与されました。橋本講師の受賞研究課題は，新規酵素の探索・分子レベルでの詳細な解析のみならずその知見を基にした新規有用物質高度生産系の基盤技術開発など基礎・応用両面から優れた研究業績をあげた研究として選考委員会での高い評価を受け今回の受賞となりました。

磯田博子助教授・川野光子研究員がコスメトロジー研究振興財団助成に採択される

11月16日に日本薬学会長井記念館ホールにおいて、第17回コスメトロジー研究振興財団表彰・贈呈式が行われ、磯田博子助教授・川野光子研究員（生命環境科学研究科、北アフリカ研究センター）が、「地中海アロマ植物からの白髪予防生理活性物質の探索およびその機能解析」の研究課題について助成を受けました。磯田助教授



磯田助教授（右）と川野研究員（左）

と川野研究員は、北アフリカ地中海アロマ植物由来の抜け毛防止およびメラニン合成促進成分を見出し、そのメカニズム解析や化粧品シーズ開発に向けた研究を進めています。本研究により、北アフリカ地中海アロマ植物を用いた化粧品シリーズの開発が期待されています。

中川 嘉講師が金原一郎記念医学医療振興財団基礎医学医療研究助成金に採択される

中川 嘉講師（人間総合科学研究科（基礎医学系）、病態制御医学専攻、診断生化学）は、このほど金原一郎記念医学医療振興財団（理事長＝理化研脳科学総合研究センター特別顧問・伊藤正男氏）の「第21回基礎医学医療研究助成金」交付対象者として採択されました。同財団は医学書院創業者金原一郎氏の遺志を継ぎ、基礎医学の振興を目的として1986年に設立。今年で20周年を迎え、助成金の累計額も6億6,000万円を超えました。助成事業として(1)基礎医学医療研究助成金、(2)研究交流助成金、(3)留学生受入助成金、(4)研究出版助成金の4種目を行っています。10月20日に文京区の医学書院本社において開催された第40回認定証贈呈式では、「抗糖尿病転写因子TFE3による脂質代謝異常改善メカニズムの解明」を助成対象として受賞した中川講師が受賞者を代表して挨拶をしました。詳細については、以下のHPをご覧ください。



後列右から6番目が中川講師

http://www.igaku-shoin.co.jp/nwsprr/n2006dir/n2707dir/n2707_02.htm

谷川 武助教授が財団法人三井住友海上福祉財団研究助成（交通安全等関係）に採択される

谷川 武助教授（人間総合科学研究科、社会環境医学専攻、社会健康医学分野）は、研究課題「職業運転者における睡眠時無呼吸症候群スクリーニング法のガイドライン作成に関する研究」により財団法人三井住友海上福祉財団2006年度研究助成の交通安全等関係の課題に採択されました。本研究では職業運転者を対象とした睡眠時無呼吸症候群（SAS）スクリーニングを実施することにより職業運転者におけるSASスクリーニング法の評価と妥当性に関する検討を行い、「職業運転者における睡眠時無呼吸症候群スクリーニング法のガイドライン」を作成することを目的とします。本研究により、職域におけるSAS患者の早期発見・早期治療のシステムを確立し、交通事故の防止効果が期待できます。



関口 章教授指導の金城 玲氏がケイ素化学協会シンポジウムでポスター賞を受賞

関口 章教授（数理物質科学研究科）指導の数理物質科学研究科5年、金城 玲氏（化学専攻、構造有機化学研究室）は、「ジシリンの還元反応：初めての安定なジシリンアニオンラジカル種及び関連化合物の合成と構造」により、ケイ素化学協会シンポジウムでポスター賞を受賞しました。この賞は、桐生で開催された第11回ケイ素化学協会シンポジウム（2006年、11月10日－11日）において優れた研究成果の発表を行った研究者に対して与えられたものです。119件のポスター発表者の中から6名が受賞したものです。桐生国際ホテルにて10日に行われた懇親会の席上で表彰されました。



星野靖雄教授指導のラニ・ライネッサ・アルカンタラ氏が経営行動科学学会奨励研究賞受賞

星野靖雄教授(システム情報工学研究科社会, システム・マネジメント専攻)指導のシステム情報工学研究科D5に在籍しているラニ・ライネッサ・アルカンタラ氏(同)は経営行動科学学会奨励研究賞を受賞しました。同学会の機関誌Japanese Journal of Administrative Science (経営行動科学)に掲載した論文“Growth and Ownership: Evidence from Foreign Manufacturing Affiliates in Japan” Vol.18, 2005 (星野靖雄教授と共著)が対象となりました。



内山裕夫教授及び野村暢彦助教授指導の八幡穰氏が日本微生物生態学会優秀ポスター発表賞を受賞

内山裕夫教授(生命環境科学研究科)及び野村暢彦助教授(同)指導の生命環境科学研究科後期課程1年八幡穰氏(生物機能科学専攻)は、「異種微生物間コミュニケーションによる*Pseudomonas aeruginosa*の抗生物質耐性, 病原性, 遺伝子発現制御の発見」により第22回日本微生物生態学会(10月27日~10月30日)で優秀ポスター発表賞を受賞しました。この賞は, 研究内容・成果の優秀さとともに, ポスターの美しさや発表者の説明方法の明瞭さも選考の対象となり, ポスター発表146件の中から6名が受賞しました。



柿 篤 眞 教 授 指 導 の Siriporn POTA氏がタイ-日本学生科学交流会議において, 自然科学部門のポスター賞を受賞

柿 篤 眞 教 授 (生命環境科学研究科, 生物圏資源科学専攻) 指導の博士前期課程1年次 Siriporn POTA氏(同) は, 11月2~3日に大阪大学で開催されたThe 1st Thai-Japanese Students Scientific Exchange Meeting (第1回タイ-日本学生科学交流会議)において, 自然科学部門のポスター賞を受賞しました。この会議は, タイ国王の在位60周年と, タイと日本の交流120周年を記念して, 両国の学生や研究者の交流を促進するために開催されたものです。「Studies on Rust Fungi」と題して発表し, その研究内容とプレゼンテーションが評価されました。



●「速報つくば」について

「速報つくば」の次回（通巻1137号）の発行日は12月13日（水）です。原稿の提出は12月6日（水）の午前中までをお願いします。従来、締切日は木曜日でしたが、編集方法変更のため、今回から水曜日とさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

- ◆できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。
- ◆表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。
- ◆シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。
- ◆簡潔に記載してください。
- ◆採用の原稿は、Web上に掲載しますので、了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENTS（学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む）を提供しますので承知願います。

「速報つくば」のweb版は、次のURLで閲覧できます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容への意見は広報課（TEL.2065, FAX.2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿された方には、原稿受付等の返信メールを送りますので、ご確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、広報課までご連絡をお願いします。